

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当時間数	
				職種	役職			
成人看護学概論	1	1	後期	看護師	本校専任教員	専任教員	30	
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)				
該当する <input type="radio"/> 該当しない <input checked="" type="radio"/>				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%				
評価方法	試験 学修意欲 レポート			教科書・参考資料	成人看護学総論:医学書院 国民衛生の動向:厚生統計協会			
概要	成人看護の対象となる人の特徴や成人保健の動向を理解するとともに、成人期にある人やその家族のストレス、危機状況を理解する。また、疾病からの回復適応を促すための援助に必要な保健医療システムの機能、役割について認識し、保健医療チームの一員としての責任を自覚する。成人期にある人々の様々な価値観、個別的及び社会的存在についても関心を深め人間としての尊厳をもって対象に接する態度を学ぶ。							
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期の対象の特徴が理解できる。 2. 成人の持つ健康問題の多様性について理解できる。 3. 成人保健の動向について理解できる。 4. 多様な健康問題に対する成人看護の役割と機能について理解できる。 5. 成人の健康レベル 							
回数	授業内容・計画							
1	第1章	A 対象の理解:大人になること、大人であること						
2		B 対象の生活:働いて生活を営むこと						
3	第2章	A 成人を取り巻く環境と生活からみた健康						
4		B 生活と健康をまもりはぐくむシステム						
5	第3章	A 生活のなかで健康行動を生み、はぐくむ援助						
6	第4章	A ヘルスプロモーションと看護						
		B ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動						
7	第5章	A 健康バランスの構成要素						
		B 健康バランスに影響を及ぼす要因						
8		C 生活行動がもたらす健康問題とその予防						
		【急性期・回復期】						
9	第6章	A 健康の急激な破綻						
10		B 急性期にある人の看護						
11	第11章	A 新たな治療法、医療処置の開発・普及						
		B 新たな治療法、医療処置を受ける患者・家族の看護						
		【慢性期】						
12	第7章	A 慢性病とともに生きる人を理解する						
13		B 慢性病とともに生きる人を支える						
14	第10章	A 移行支援の基礎知識						
		B 継続的な移行を支える支援の実際						
15	終講試験							
留意事項								

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当 時間数
				職種	役職		
成人看護学援助論 I (生命維持の危篤状態にある人の看護)	1	2	前期	看護師 医師 看護師 看護師	津山中央病院 師長 同 麻酔科医師 同 専門師長 同 専門師長	非常勤講師 非常勤講師 6名 非常勤講師 非常勤講師	8 6 12 4
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
○該当する ・ 該当しない				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%			
評価 方法	試験	学修意欲	レポート	教科書・ 参考資料	臨床外科看護総論:医学書院 第2章 第6章 第7章 第8章 第9章 成人看護学{3}循環器 成人看護学{4}血液・造血器 成人看護学{5}消化器		
概要	急激な健康状態の変化が起こっている患者の身体的・精神的・社会的状況を学び、根拠に基づいた緻密な観察と適切な対処、正確な医療処置の実施、その人の家庭生活・社会生活を支える看護、心理的安定を促す看護の実践方法を学ぶ。						
目標	1. 周手術期にある人の看護の特徴と援助方法について理解できる。 2. 肝機能(消化機能)に障害を持つ人の看護の特徴と看護問題・援助方法について理解できる。 3. 血液・造血・循環機能に障害をもつ人の看護の特徴と看護問題・援助方法について理解できる。						
回数	授業内容・計画						
1	臨床外科看護総論 3章 A 麻酔法 B 呼吸管理(酸素療法と機械的人工換気) C 体液管理						
2	D 栄養管理						
3	9章 B 術後合併症の発生機序 C おこりやすい術後合併症の予防と発症時の対応						
4	臨床外科看護総論 6章 E 滅菌物の管理						
5	7章 B 外来における手術前の患者の看護						
6	8章 A 手術中の看護の要点						
7	B 手術室における看護の展開 C 手術室の環境管理						
8	成人看護学3 循環器 6章 B 症状に対する看護①②③						
9	C 検査を受ける患者の看護①②③						
10	D 治療を受ける患者の看護②④⑦						
11	E 疾患をもつ患者の看護①②③④⑤⑧						
12	F 心臓リハビリテーションと看護						
13	4 血液造血器 6章 A 患者の経過と看護 B 主要症状を有する患者の看護 E 造血器腫瘍患者の看護						
14	成人看護学5 消化器 6章 II 症状に対する看護 III 検査を受ける患者の看護						
15	IV 治療処置を受ける患者の看護 A・C・E V 疾患をもつ患者の看護 A～E(手術看護を除く)						
15	終講試験						
留意事項							

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当 時間数
				職種	役職		
成人看護学援助論Ⅱ (回復と自立を支える看護)	1	2	前期	看護師 看護師 看護師 看護師	津山中央病院専門師長 同 師長 同 師長 同 専門師長	非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師	12 8 6 4
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
○該当する ・ 該当しない				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%			
評価 方法	試験 学修意欲 レポート			教科書・ 参考資料	成人看護学 {10}運動器 {2}呼吸器 {7}脳神経 {8}腎・泌尿器		
概要	心身の機能・構造に何らかの障害を有し、日々の生活や社会生活に支障をきたした人とその家族が障害を抱えながらもその人らしい生活を再構築している過程を支援するための知識と看護の実践方法を学ぶ。						
目標	1. 運動機能障害を持つ人の看護の特徴と看護問題・援助方法について理解できる。 2. 呼吸器機能に障害を持つ人の看護の特徴と看護問題・援助方法について理解できる。 3. 神経機能に障害を持つ人の看護の特徴と看護問題・援助方法について理解できる。 4. 排泄機能(排尿)に障害を持つ人の看護の特徴と看護問題・援助方法について理解できる。						
回数	授業内容・計画						
1	成人看護学{10}運動器 第6章	A 疾患をもつ患者の経過と看護	B 援助のためのおもな知識と技術				
2		C 症状に対する看護	D 検査を受ける患者の看護				
3		E 保存療法を受ける患者の看護					
4		F 手術を受ける患者の看護					
5		G 疾患を持つ患者の看護					
6	成人看護学{2}呼吸器 第1章	B 患者の特徴					
7	第6章	B 症状に対する看護					
8		C 検査を受ける患者の看護					
9		D 治療・処置を受ける患者の看護①②③⑤	E 疾患を持つ患者の看護①～⑦				
10	成人看護学{7}脳神経 第6章	B 症状・障害をもつ患者の看護①～⑫					
11		C 治療処置を受ける患者の看護					
12		D 疾患を持つ患者の看護					
13	成人看護学{8}腎・泌尿器 第6章	D 治療処置を受ける患者の看護	③導尿 ④カテーテル				
14		E 疾患をもつ患者の看護	⑪膀胱がん ⑫前立腺がん ⑬前立腺肥大 ⑭尿路結石				
15	終講試験						
留意事項							

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当時間数
				職種	役職		
成人看護学援助論Ⅲ (自己管理を必要とする人の看護)	1	2	前期	看護師 看護師 看護師 看護師	津山中央病院 専門師長 同 師長 同 副師長・認定看護師 同 師長	非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師	12 6 6 6
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
○該当する ・ 該当しない				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%			
評価方法	筆記試験			教科書・参考資料	成人看護学 [6]内分泌 [6]代謝 [12]皮膚 [8]腎・泌尿器		
概要	健康状態の自己管理を必要としている患者が自分自身で病気をマネジメントしていける力を身につけられる具体的な知識や看護の実践方法を学ぶ。						
目標	1. 内分泌・代謝機能障害(糖代謝障害)を持つ人の看護の特徴と看護問題・援助方法について理解できる。 2. 自己免疫機能に障害(皮膚・アレルギー・膠原病)を持つ人の看護の特徴と看護問題・援助方法について理解できる。 3. 体液調節機能(腎機能)に障害をもつ人の看護の特徴と看護問題・援助方法について理解できる。						
回数	授業内容・計画						
1～4	成人看護学[6]内分泌 6章 A 疾患をもつ患者の経過と看護 B 内分泌疾患患者の看護 ①内分泌疾患の検査を受ける患者の看護 ②下垂体疾患患者の看護 ③甲状腺疾患患者の看護 ⑤副腎疾患患者の看護						
5～6	成人看護学[6]代謝 6章 C 代謝疾患患者の看護 ①糖尿病患者の看護 ②脂質異常症患者の看護 ③肥満 ⑤尿酸代謝異常患者の看護						
7～12	成人看護学[12]皮膚 6章 A 疾患をもつ患者の経過と看護 B スキンケア C 症状に対する看護 D 検査を受ける患者の看護 E 治療・処置を受ける患者の看護 褥瘡患者の看護						
13～14	成人看護学[8]腎・泌尿器 6章 II 症状に対する看護 ①② III 検査を受ける患者の看護 IV 内科的治療を受ける患者の看護 A 治療・処置を受ける患者の看護 B 疾患を持つ患者の看護 C 透析治療を受ける患者の看護						
15	終講試験						
留意事項							

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当 時間数
				職種	役職		
成人看護学援助論IV (終末期の生を支える看護)	1	2	後期	看護師 看護師 看護師	津山中央病院 認定看護師 同 専門師長・認定看護師 同 師長	非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師	4 4 22
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
○該当する ・ 該当しない				講義形式(90)% ・ 実習など講義形式以外(10)%			
評価 方法	筆記試験			教科書・ 参考資料	成人看護学総論:医学書院 総合医療論:医学書院 プリント		
概要	医学による緩和治療の知識や死にまつわる人間の反応を取り扱う心理学や社会学の知識の概要を学び、終末期にある人のクオリティ・オブ・ライフを大切にしたい、生活を支える看護の実践を学ぶ。						
目標	1. 終末期にある人のニーズが理解できる。 2. 終末期にある人の全人的ケアについて理解できる。 3. 終末期にある人の家族に対するケアについて考えることができる。 4. 「生」と「死」について自分の考えを述べるができる。						
回数	授業内容・計画						
1～4	成人看護学総論 第3章 症状マネジメント 症状マネジメントと看護実践 化学療法と看護						
5～11	成人看護学総論 第9章 人生の最期のときを支える看護 B人生の最期のときを過ごしている人の理解 C人生の最期のときを支える看護 終末期の看護 緩和ケアについて						
12							
13	成人看護学総論 第9章 人生の最期のときを支える看護 A人生の最期のときにおける医療の現状						
14	総合医療論 第5章 現代医療の新たな課題 C先端医療技術がもたらす倫理上のジレンマ Gインフォームドコンセントと医療情報の開示						
15	終講試験						
留意事項							

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当 時間数
				職種	役職		
成人看護学援助論Ⅴ (治療に伴う看護)	1	2	前期	看護師	澤山中央病院 専門師長	非常勤講師	2
				看護師	同 専門師長	非常勤講師	12
				看護師	同 師長	非常勤講師	8
				助産師	同 師長	非常勤講師	8
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
○該当する ・ 該当しない				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%			
評価 方法	筆記試験			教科書・ 参考資料	臨床外科看護総論:医学書院 臨床外科看護各論:医学書院 成人看護学[7]脳・神経:医学書院 成人看護学[9]女性生殖器:医学書院		
概要	医療処置・治療に伴う患者の身体的・精神的・社会的な変化を知り、処置・治療が患者にとって安全・安楽に行われるための看護の実践を学ぶ。						
目標	1.手術を受ける患者の術前術後の看護の特徴と看護問題・援助方法について理解できる。 2.化学療法・放射線療法を受ける患者の看護の特徴と看護問題・援助方法について理解できる。						
回数	授業内容・計画						
1	臨床外科看護総論 10章 集中治療を受ける患者の看護						
2	臨床外科看護総論 7章 手術前患者の看護 D 手術前の具体的援助						
3	9章 手術後患者の看護 A 手術後の回復を促進するための看護 D 形態変化機能障害へ適応への援助						
4	臨床外科看護各論 1章 II肺・胸部疾患患者の看護 A 肺切除術を受ける患者の看護 B 胸部外傷患者の看護 C 乳房の手術を受ける患者の看護						
5	3章 II消化器・腹部疾患患者の看護 A 開腹術を受ける患者の看護 B 腹腔鏡手術を受ける患者の看護						
6	C 消化管手術を受ける患者の看護 D 肝切除術を受ける患者の看護 E 胆嚢・胆道の手術を受ける患者の看護 F 膵臓の手術を受ける患者の看護						
7	臨床外科看護各論 4章 脳・神経疾患患者の看護 A 開頭術を受ける患者の看護						
8	B 脳室ドレナージ術を受ける患者の看護						
9	C 脳室-腹腔短絡術(V-Pシャント術)を受ける患者の看護						
10	D 頭部外傷患者の看護 成人看護学[7]脳・神経 6章 患者の看護 C-①開頭手術を受ける患者の看護						
11	成人看護学[9]女性生殖器 6章 B 外来・病棟における看護 C 診療介助における看護						
12	D 症状とその病態に対する看護 E 臓器別疾患・機能的疾患患者の看護						
13	F 手術を受ける患者の看護 I ホルモン療法を受ける患者の看護						
14	J 体外受精を受ける患者の看護						
15	終講試験						
留意事項							